

安全な住まいを考える

耐震性を満たす住宅について、専門家や実際に耐震化に取り組んだ人たちの話を聞いてみましょう。
あなたの住まいを見直すきっかけになるかもしれません。

一級建築士で耐震診断も行う柴田光俊さんに、耐震化について聞きました。

まずは知ることから

熊本地震では、犠牲者が出るなど大きな被害が発生しました。地盤や建物も確実にダメージを受けています。今、わが家の耐震性を理解しておくこと

は、万が一への備えになります。まずは自宅の状態を知ることが第一歩です。

安心して暮らすために

県が実施する一般診断の申し込みは、今でも増えているそうです。これは、耐震診断士が建物を目視などで確認し、地震に対する強さを診断するもの。

私が受ける相談件数の多さからも、不安を感じていらつしやる方が多いのだと感じます。

建物の耐震性は、その形状や壁の位置などの諸条件により、建物ごとに全て異なります。

一般診断の他にも精密診断があり、外部や内部構造まで詳細に調査を行い、判定することができます。

耐震診断は、改修や補強の目安。家族構成やライフスタイルなどに合わせて、補強するのかわるべきか今後の住まいを検討するきっかけにもなります。安心して暮らせることが一番。建築士への相談は無料の場合が多いので、心配事を抱えたままではいけません。一度相談してみてくださいいかがでしょうか。

柴田建設設計事務所
一級建築士 柴田 光俊 さん



事務所兼自宅は3階建て 吹き抜けのある部屋が一番ねじれていたそう

宇城市戸建て木造住宅耐震改修等事業

耐震改修設計 耐震改修工事



宮崎 光一さん
松橋町

命を最優先に

県のホームページを見て、一般診断を申し込みました。罹災証明書の判定は一部損壊でしたが、一般診断の結果は「倒壊する可能性が高い」というものでした。妻と話し合い、命を守ることが最優先だと精密診断を受けることに。生活空間である2階が特に危ないと分かり、耐震改修設計・耐震改修工事を行いました。工事期間は3カ月で、損傷した内壁や外壁を改修、筋交いや金物で補強し、「一応倒壊しない」という判定が出るまでに強度が増しました。

今では地震が起きても、建物の揺れる音が小さくなっているので、不安が減り、気持ちにもゆとりが生まれています。構造の強化は目に見えるものではありませんが、安心して生活することができるようになりました。



地盤改良し、新築した家 耐震診断などの調査結果から建て替えを決意した

宇城市戸建て木造住宅耐震改修等事業

建て替え



吉永 優美子さん
小川町

先を見通す

建て替え前のわが家は、木造瓦屋根の日本家屋でした。一部損壊の判定を受けましたが、修理箇所も屋根から浴槽まで多岐にわたるため、まずは建物の状況を知ろうと、住みいるダイヤルの診断を受けました。すると高額な修理費用がかかる事が分かり、築年数を考えると修理か建て替えか迷っていました。その後、地盤調査や一般診断も受け、地盤改良が必要な上に建物は強度不足であることが分かり、建て替えの意思を固めました。地盤改良の補助金申請は、知人から教えてもらいました。

建て替えはしましたが、愛着のあった元の家。床柱をテーブルや椅子にして今も大切に使っています。安全な住まいを考え、一般診断を受けたことで先を見通すことができました。



基礎の白い部分から先が沈下し、傾斜復旧をした

被災宅地復旧支援事業

宅地復旧



丸目 博昭さん
不知火町

住み慣れた土地で

熊本地震で敷地に断層が走っていたことが分かりました。度重なる余震の影響で、目の前の道路が陥没し、宅地の南側と西側も沈下。建物は傾き、水道も止まってしまいました。全壊の判定を受けましたが、住み慣れた土地で暮らしたいと思い、修復することを選びました。補助金申請をしたのは、当時の区長さんから話を聞いたからです。とても助かりました。

地盤改良工事では、7分ほど下の岩盤までくいを何本も打ちました。家はジャッキアップし、水平に修復してもらいました。

避難生活では、不知火グラウンドや中学校などを転々としていましたが、また自宅で生活できるようになったことが一番。仲間もいるこの土地に住み続けることができうれしいです。



家の敷地を囲む頑丈な擁壁 自然災害から建物を守る

被災宅地復旧支援事業

擁壁の復旧



石村 加代子さん
豊野町

私の役目

広報紙の補助支援の記事を読み、支援を受けることができるか都市整備課に確認してみると、該当との回答。元は昔ながらの石垣でしたが、石工職人さんの手が足りないこともあり、コンクリートを使った練積み造擁壁工法で修復しました。

地震当手を振り返ると、自宅敷地で車中泊をしているときに本震の強い揺れが襲い、あつたはずの塀は消え、建物ぎりぎりまで宅地が崩壊。道路の中央線まで土砂が流れ出ていました。雨が降るたびにまた崩れるのではないかとヒヤヒヤしていたことを思い出します。

復旧するのは私の役目だと思い、工事をしたことで、これからは周りの皆さんや子どもたちに迷惑を掛けることもなくなり、安心することができました。